

今週（6月6日から6月10日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、週の前半と後半で各業態の調達姿勢が大きく変化する展開となった。無担保コールO/N物は、先週からの流れを引き継ぎ、週初は資金調達意欲の弱い展開となった。出会いレートの水準は、▲0.065～▲0.030%近辺が中心となり、先週対比で低下した。一方で、週の半ばから後半にかけては、オファーサイドの運用額減少や積み最終日に向けた調達ニーズの高まりを受け、レート水準が徐々に切り上がる展開となった。無担保コールO/N物加重平均レートは、週の前半は▲0.04%台で推移したが、後半は▲0.02%台まで上昇した。

ターム物は、ショートターム物を中心に▲0.030%～▲0.010%近辺で引き合いが見られた。

日銀当座預金残高は大きな変動はなく、概ね538兆円～539兆円程度で推移した。

7日に行われた指値オペでは、10年利付国債366回の買入利回りは、0.250%であった。オペには934億円の応札が見られた。9日に行われた指値オペでは、10年利付国債366回の買入利回りは、0.250%であった。オペには60億円の応札が見られた。10日に行われた指値オペでは、10年利付国債366回の買入利回りは、0.250%であった。オペには880億円の応札が見られた。

指値オペへの応札は4月28日以来となった。5月2日以降、毎営業日オファーされるようになってからは初めてとなる。

●レポ市場

今週のGC O/N物は▲0.085～▲0.080%のレンジでの推移となった。積み最終日が近づく中、オファー・ビッドが拮抗する展開となり、9日と10日には短国の入札もあったが、レート上昇には至らなかった。

SC取引の個別銘柄では、2y435～2y437、5y147～5y151、10y359～366、20y175～180、30y68～74、40y14～15などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、来週に3回の入札を控える中、9日に実施された6M物の入札がやや弱めの結果であったことを受け、週後半は3M～6M物が軟調に推移する展開となった。一方で、1Y物は週を通して横ばいで推移した。10日に実施された3M物の入札は、無難な結果となり、結果発表後のセカンダリーマーケットでは堅調に推移した。

7日に実施された短国買入オペは、前回と同額の5,000億円でオファーされ、弱めの結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、電機・輸送機器・鉄鋼等の業態から大型の調達を実施されたものの、件数が多いとは言えず比較的落ち着いた一週間となった。発行体の調達期間は1～3か月が中心であった。週間の発行総額は、約8,700億円と大幅な発行超となり、発行総残高は、9日時点で26兆7,200億円程度と高水準を維持している。発行レートは、短期格付けが1格の発行体において、概ね0%近傍で推移している。ただし、期越えかつ希少性が高いものについては、浅いマイナス圏で決着する銘柄も見られた。

9日には、CP等買入オペが予定通り4,000億円オファーされた。応札8,201億円、落札3,965億円、按分レート▲0.001%、平均落札レート+0.005%と前回比でいずれも上昇した。また、按分レートに限れば、3月11日実施分から7回連続で上昇となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
6/6 (月)	27,915.89	0.240	130.75	△ 0.043	△ 0.084	5,379,300
6/7 (火)	27,943.95	0.245	132.23	△ 0.045	△ 0.083	5,384,500
6/8 (水)	28,234.29	0.245	132.90	△ 0.041	△ 0.086	5,380,600
6/9 (木)	28,246.53	0.245	134.44	△ 0.029	△ 0.086	5,390,300
6/10 (金)	27,824.29	0.250	134.20	△ 0.025	△ 0.086	5,389,900

来週（6月13日から6月17日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定		海外主要経済指標
6/13 (月)	4-6月期の法人企業景気予測調査季報 (内閣府・財務省共管 8:50)			
6/14 (火)		TB6M 28,000億円 6/16発行	流動性供給 5,000億円 6/15発行	米FOMC(1日目) 5月の米生産者物価指数
6/15 (水)	4月の機械受注統計(内閣府 8:50) 4月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)	TB1Y 35,000億円 6/20発行		米FOMC(2日目) FRB 米経済見通し発表 5月の米小売売上高 4月の米企業在庫
6/16 (木)	日銀政策委・金融政策決定会合(1日目 14:00~) 5月の貿易統計(財務省 8:50)	TB3M 56,000億円 6/20発行		5月の米住宅着工件数 英中銀MPC結果発表
6/17 (金)	日銀政策委・金融政策決定会合(2日目 9:00~) 日銀総裁定例会見(15:30) 4月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)			5月の米鉱工業生産・設備稼働率 5月のユーロ圏消費者物価指数改定値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
6/13 (月)	100	▲ 8,500	▲ 8,400	国債買入 国債補完 CP買入 社債買入	3,700	900 ▲ 400 ▲ 300	3,900	▲ 4,500	TB3M発行▲56000償還49500
6/14 (火)	0	▲ 1,000	▲ 1,000	CP買入		4,000	4,000	3,000	源泉所得税揚げ 社会保障費
6/15 (水)	▲ 1,000	67,000	66,000				0	66,000	年金定時払い 個人向け3Y・5Y・10Y発行▲2900 個人向け3Y・5Y償還480 流動性供給▲5000
6/16 (木)	▲ 1,000	8,000	7,000				0	7,000	TB6M発行▲28000償還34000
6/17 (金)	▲ 1,000	▲ 2,000	▲ 3,000				0	▲ 3,000	交付税借入▲13000期日11000
週間合計	▲ 2,900	63,500	60,600	—	3,700	4,200	7,900	68,500	

6/13は日銀予想、6/14以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積み最終日に向けて引き続き活況なマーケットが見込まれる。新しい積み期間となる16日以降は、27日に新型コロナオペの期落ちを控え、調達姿勢に変化が出始める先も想定される事から、これまでの積み期序盤に比べ、出合い水準はやや低下する事が予想される。レポ市場は、参加者のスタンスに大きな変化がなければGC O/N物のレートは▲0.085～▲0.080%程度の水準で推移し、新積み期に変わる15日以降のO/N物は、資金調達ニーズが落ち着き▲0.10～▲0.090%近辺で推移することが見込まれる。短国市場は、14日に6M物、15日に1Y物、16日に3M物の入札実施が予定されている。また、短国買入オペ実施の有無を注視したい。CP市場は、CP等買入オペの按分レート上昇を受け、発行レートへの影響が注視される。

主要なイベントは、国内では15日に機械受注、16～17日に日銀金融政策決定会合、海外では14～15日にFOMC、16日にMPC、17日に5月のユーロ圏消費者物価指数などの発表が予定されている。

- ◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をお読みください。